

キーワード：デザイン心理学、感覚・知覚・感性、デザイン評価・分析

人間の心理と行動特性を考慮したデザイン

研究・地域連携活動の背景・目的

モノは、「人間が使用（または利用）する」のが目的であるため、人間の心理と行動特性に基づいたデザインが求められます。このニーズに対応するため、私はデザイン心理学を用いた人間の心理と行動特性の分析、応用に関する研究を行っています。

期待される効果などアピールポイント

モノづくりのプロセスにデザイン心理学に基づいた人間の心理と行動特性の分析の過程を取り入れることにより、安全性、使いやすさ、心地良さを向上させることが可能になります。これは人間の生活の質を向上させることに繋がるので、デザイン心理学の重要性はますます上がると思います。

研究・地域連携活動の概要紹介

【プロダクト・グラフィックデザイン分野】

既存の医薬品パッケージデザインは同社の製品、他社の製品と区別が困難でした。これにより、医薬品を扱っている薬剤師が誤って処方したり、医薬品を飲んでいて患者が誤飲したりする場合があります。これを改善するために薬剤師と患者を対象に医薬品を扱う際の行動特性（例えば、医薬品を探すときの行動パターン、医薬品パッケージの認知パターン、その他の行動パターンなど）を分析し、それに基づいて新デザインを開発しました（図1）。

【インテリアデザイン分野】

既存の銀行のインテリアは暗くて硬いイメージが強く、ATMなどの機械音により冷たいと感じる利用者が非常に多かったです。これらを改善するために銀行を利用する際の利用者の行動パターンおよび心理状態を分析し、それに基づいて室内雰囲気および音環境を改善したインテリアデザインを行いました（図2）。



図1 医薬品パッケージ



図2 銀行のインテリアデザイン